

NO.182

# 全 仏

11/47



(ネパール大使へ医療基金  
を贈る東義寿大会長)

第二十回全仏青森大会

僧俗一体の大結集

今年で二十回をむかえた全日本仏徒会議は約半年にわたる関係者の努力が実り、さる十月一、二、三日にわたり青森市において盛大に開かれた。

一日夜には高田好胤薬師寺管長の記念講演を中心に前夜祭が、二日は市民会館で式典、総会、各部会。三日は蓮華寺において総会と閉会式典で幕を下ろした。

仏教徒会議についてそのあり方などいろいろと意見の多い昨今ではあるが、やはり地方仏教会においてはこの様な形式の大会でも大いなる効果のあるものである。

今年の新潟県とい、大会をやった県仏教会は明らかにその強化、拡充に成果を上げてきている。県外参加者の姿勢に問題ありとの声も聞かれるが、これはいかに大会の形式を変更しようが変わるものではない。置くようにもっていかねばならないのは当然であろうし、現に全仏の制度調査委員会(現在は機構改正案起草委)でもそのことは検討されている。が、これも急いでできる問題ではなく、そのためへの暫

定の期間が必要である。現状では一応の結果ある現大会を踏襲し、新しい趣向、観点にたつてしばらくは今のままの大会をより密度あるものにしながら続けることが望ましい、との意見が聞かれる。多くの意見を拝聴しながら今大会を振りかえるとき、東会長の努力には頭が下り、青森県仏内における僧俗一体となつての事業推進の姿勢に理屈抜きのみ教えを見出した。墨跡展も回を重ねるにしたがつて、盛況を呈し、また記念事業の一つ、インド、ネパールへの難民救済基金は各百万円、インド日本寺建設基金として五十万円が贈呈されたこと。沖繩仏教会の全仏加盟に続いて大会への参加等と今大会の特色の一つがうかがえる。なお提出された各議題についてはすべて採択され、その詳しい報告は議事録の完成をまって後日に本紙上において発表する。

また、三日の総会において東京ブディストクラブより「中国仏教界の調査と交流研究の件」について質問的提案がなされそれについて柳国際局長が以前の中国仏教会との交流状況と今後の対策について

答弁した。なお、台湾の仏教会よりは、中国との国交正常化について全仏宛に抗議文がきており、これは慎重を要するたため十分な検討がなされた上で回答を出す予定である。

今大会の宣言および決議文は次のとおりである。

宣言

われら仏教徒は、自ら篤く三宝を敬い仏陀の大慈悲の精神のもと、祖国復帰を果した同胞沖繩県民の長い労苦をしのび併せて多極化する内外の情勢に対応するとともに、人間尊重を基調とした社会の繁栄に向つて努力し、本大会における成果を意義あらしめんことを誓う。

右 宣言する。

昭和四十七年十月三日  
第二十回全日本仏徒会議

青森 大会

決議

一、われらは、宗派の教義と信仰を護持顯揚するとともに、全国の地域仏教



(超満員の市民会館ホール)

会を通じて組織的全一仏教運動をより強力に推進し日本仏教の確立を期する。

一、われらは、仏教の理念と道徳をよく理解し、地域社会において寺院と檀信徒一体となり、健全にして豊かな社会を造るため指導的役割を果たすことを期する。

一、われらは、全一仏教運動における仏教婦人の使命を認識し仏教精神に基づき青少年育成と幸福な家庭づくりを期する。

右 決議する。

昭和四十七年十月三日  
第二十回全日本仏徒会議

青森 大会



御挨拶

第二十回全日本仏教徒会議青森大会開催にあたり、関係各位に多大なる御協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。  
今後とも全一仏教運動推進のため御尽力下さいますようお願い申し上げます。  
台掌

財団法人 全日本仏教会  
会長 佐藤 泰舜  
理事長 鈴木 悟  
事務総長 麻布 照海



韓国に仏書寄贈を！

このたび韓国において仏教図書館を設立することとなり、協力要請を受けた全仏では広く贈書協力をよびかけている。

これは、さる五月、韓国において、韓国仏教各宗代表者会議が開かれ、ソウル市龍山区の仏教センター内に韓国仏教図書館を設立することを決定したが、ほとんど日本出版の仏書に依存している現状から、韓日仏教親善協会（李能嘉会長）より全仏に仏教図書館寄贈方の協力要請が

あったもの。

全仏では、常務理事会に計り、このことについて両国親善、仏教興隆のため贈書運動推進を議決し、さらにさきの全仏青森大会においても「韓国における仏教図書館設立に対して贈書運動に協力しよう」の議案を提出し、万場一致賛成を見

た。  
目標部数を約一万部として、すでに加盟団体並大学等関係各方面に寄贈協力の

依頼をし、早速に六件百部余りが寄せられているが、日本仏教の名においても数多くの仏書を韓国に贈りたく、多くの方々からの贈書協力を切望している。収集場所は全仏国際局宛である。  
なお、韓国からの依頼状は次の通りである。

貴国並に貴会の永久なる繁栄を真心より御祈り申し上げます。

就きましては一七〇〇年前、仏教が韓国へ輸入されて以来古代三国時代から、新羅統一時代を経て高麗代までの一千余年間は政治、経済、文化、教育、軍事に至るまで仏教に因らざるなく李氏朝鮮に至り、やや崇儒排仏政策といったもののそれは一時的の現象であってほとんど歴

代朝野の深き信心が絶えない実情にござ  
いました。このような歴史的韓国仏教は  
今や韓民族の精髓になり、韓国文化の精  
彩でもあるわけでございます。特に終戦  
後は民族解放の虚脱を満たす唯一の求心  
点の必然的な追求となり知識人、文化人  
学生、一般社会層の仏教に対する飛躍的  
な研究熱は非常な次第にございました。  
このような情勢に到りつつも、遺憾なが  
らにも知識源たる仏教図書供給策が殆  
無なる実情であります。このような事情  
に鑑み従来韓国仏教指導層では、異口同  
聲に仏教図書館設立の願いが高かった訳  
でございました。この仏教図書館は、も  
ちろん超宗派的で大衆的な、いつ、どこ  
で、誰でも手軽に利用せしめ、凡国民的  
仏教教養を向上促進せしめる役割の図書  
館とすることを主眼としてきたわけでござ  
いました。この願いの一端が遂にさる  
五月二十七日本会議室において、韓国仏  
教各宗派代表者会議をもつことになりま  
して、即日歴史の「仏教図書館設立委  
員会」が発足されました次第でございま  
す。

だが実に国内仏教人の対象とする仏教  
図書はほとんど貴国出版の仏書に頼る他  
にない実情にござる次第であります。  
ここにおいて韓日仏教親善のより深き  
契縁を提高する意味においても、貴国の  
仏書寄贈を痛感する次第でございます。  
ゆえに、特に御願ひ致すべきは、真に御  
迷惑ながら貴会より貴会の加盟宗派に  
団体へ、本会への仏教図書寄贈運動に対

する積極的御協力を頂きたく存じます。  
而して、この契縁が民族と国土が両分  
され、今なお歴史的試練に処せられた韓  
国仏子等の鞏より鞏固な信心と願力の発  
揚に決定的契機ならしめたとき哀情を御了  
解下されたく御願ひ申し上げる次第でござ  
います。終りに御参考までに「仏教図  
書館設立委員会」の役員を添えさせて頂  
きます。

仏教図書館設立委員会役員  
委員長(曹溪宗) 李 能嘉

委員(真覺宗) 孫 大鍊  
" (太古宗) 安 興德  
" (天台宗) 朴 燭喆  
" (円仏宗) 文 翔煥  
" (法華宗) 崔 鎮煥  
" (仏入宗) 李 泓宣  
" (東大仏大学長) 徐 京保  
" (仏教センター代表) 張 敬浩  
韓日仏教親善協会  
一九七二年六月十六日 李 能嘉

# 質問状を提出

## 墳墓地貸付業について

全仏税制特別委員会では法人税法施行  
令一部改正を要求する陳情書並びに墳墓  
地貸付業に関する疑義について草案を檢  
討してきたが、広く宗教界全般にわたる  
問題であるという見地から、これを日本  
宗教連盟の名において提出することにな  
った。さる九月七日には税制特別委員会  
委員長鈴木敏範氏、副委員長郡司博道氏  
組織文化局長新聞信雄氏、部長岩脇宏信  
氏が文化庁宗務課を再度尋ね全仏側の要  
請により佐伯信男課長が案内にたち、大  
蔵省主税局税制第一課を訪問した。伊豫  
田敏雄課長と面談して腹藏ない意見を種  
々交換し、宗教界特に仏教寺院の実情に  
ついて理解を求めた。翌八日の日本宗教  
連盟理事会において郡司博道氏より法人

税法に関する陳情問題についての説明が  
あり宗教界共通の利害問題ということで  
宗連としても特別委員会を設置し税制に  
対処することとなった。十月六日の宗連  
特別委員会および理事会の議を経て左の  
墳墓地貸付業に関する質問状が決りまづ  
所轄の文化庁を通じ文部大臣宛に提出し  
た。目下その回答待ちである。

法人税法施行令第五号第五号(二)の  
宗教法人の行なう墳墓地貸付業に関す  
る疑義について

標記の件について左記のような疑義が  
生じたので御教示をお願いします。  
文書を以て御回答を頂ければ幸いです。

神社・寺院・教会等が「墓地埋葬等に

関する法律」に基づいて営む墳墓地及納  
骨堂は、当該法人がその教義に基き宗教  
活動の一かんとしてその信徒の用に供し  
ているものであります。したがって法人  
税法施行令第五号第五号(二)の宗教法  
人の行なう不動産貸付業(墳墓地貸付業)  
とは実質的に異なっております。

については同政令に言う、墳墓地貸付業  
の範囲を具体的に御教示していただきた  
いと存じます。

昭和三十七年十月七日  
財団法人 日本宗教連盟  
理事長 坂田 安儀  
文部大臣 稲葉 修殿

## 文化専門委員会開催

さる十月二十三日、専門委員会を開催  
し、次の二事項について協議した。

教化担当者が参集して、各宗独自の  
教化運動の実状報告を相互の参考に資し  
また各宗が全一仏教連動にも目を向けて  
布教教化の展開について、講師の問題提  
起を基に研究する予定。

中央講習会は、税法施行令の改正にと  
もない、文化庁等ともタイアップして税  
制問題、法人実務について講習する。来  
春東京で開催する予定。

なお、当日出席者は、真溪、白川、摩  
尼、塩入、中村、中根、島田各氏であった。

# 長野県仏大会盛會

## 第十九回安曇大会

さる十月二十九日、長野県南安曇郡の豊科町公民館福祉センターにおいて、第十九回長野県仏教徒會議安曇大会が県下寺院住職、檀信徒千余名が結集して盛大に催された。

稚児による散華の舞に始まった法要は正面に法輪と釈尊の立像を安置し、都筑会長を導師に世界平和、交通安全祈願、戦没者慰霊供養が厳肅壮厳に営まれた。



總會に入つて、過去二十有五年県仏會長として尽力、多大の功績を残された前會長半田孝海師に感謝状が贈呈された。ついで佐藤泰舞全仏會長の祝辞が、新聞局長により代読された。

## 栃木県仏總會開かる

栃木県仏教會では、さる十月二十五日宇都宮市観音寺太子會館において總會を開催し、永年勤続住職の表彰を行なつた。

式は鱗淵正浩副會長（全仏総務局長）の司會で始められ、黒田白純會長の挨拶のあと、県内七十歳以上の住職のうち、三十年以上勤続者五十数名に表彰状が贈られ、全仏會長佐藤泰舞現下の祝辞を戴いて、その功を讃えた。式後、満堂の聴衆を前に仁戸田六三郎早大教授の「科学時代の仏教」と題する記念講演があつて懇親會に移つた。

全仏からは麻布事務総長が出席した。

- 一、親の手で仏壇をきれいにしよう。
- 二、今日における仏教徒の使命の再確認について。
- 三、寺院の後継者を育成しよう。
- 四、寺院共済組合の拡充強化を。

屋敷清興のあと、政治評論家藤原弘達氏の「時事放談」と題する記念講演が行なわれ、最後に大会宣言文を発表して閉會した。

なお、長野県仏で會長、事務局が次のように変更になつた。

會長 都筑玄妙師（善光寺大勸進）  
事務局 長野市茂菅四八〇 静松寺内  
電（〇二六二）三三一六四三六

## 全日仏青講演會

全日本仏教青年會（理事長増田貞田氏）では、仏教青年運動推進の一環として、さる十月二十三日午後六時から、大阪御堂會館において大講演會を開催した。

音楽家黛敏郎氏の「日本を思う」、大阪大名誉教授犬養孝氏の「万葉の心」、そして薬師寺管長高田好胤師の「なさけ」と、三講師による講演は、会場をうめた観衆に深い感銘を与え、盛會であつた。

### お寺に仏旗をかかげよう

大	たて 150C—よこ 247C	¥ 4,500円	小	70C—100C	¥ 1,400円
中	90C— 135C	¥ 3,000円	手旗	35C—100C	¥ 300円

もめん 別染製 堅牢（全日本仏教會制定意匠登録済）  
各地区仏教會でまとめて御注文の際は価格の御相談に応じます。

財団法人 全日本仏教會

111 東京都台東区西浅草1-5-5

電話 03・843・6341~3

生命科学と仏教

精神とは何かの  
一つの視座

(下)

—その科学と仏教の観方—

真 深 義 貫

要するに人間がどうしたら解脱出来る

かの問題を解決出来るなら、そんな形而上の問題はどうでもよいということな

まことに興味深い。

(4)

すでに「心の座」に関する歴史的思想史で紹介したように、現代の脳研究は非

に有し、所謂高等な精神活動は、視床を含めた大脳皮質全体の基盤の上に立って

(5)

このように「精神の座」が脳の物質的

性の一としてエネルギーの運搬にアデノ

シンー三リン酸(ATP)が使われている

さらさらしない。ただ、問題は脳は脳だけで存在するものではなく、脳そのものも幾多の物質の相関関係において動きをしているということである。こうなると物質とは何か生命とは何か、さらに宇宙とは何か、これらを流れる現象展開の法則のようなものが科学的に解明されるのが要請されなければならない。そこで仏教の「法」や「業」の思想が問題にされてよいのではないかと思う。宇宙科学の分野でも、宇宙は「果しなき有限」であるといふ。現在銀河系の生きた化石ともいわれている球状星団は、今、その寿命一五〇億年を終了しようとしていると考えられ、したがって原始宇宙が生まれたのは一五〇億年前であり、現在離ればなれになっている星雲は、互に触れ合うくらいに小さなものだった。しかし一〇〇億年前くらいから宇宙の膨脹がはじまり、現在もお膨脹を続けている。このようななかで星は死し、また新星が生まれている。したがって吾々の地球も物質の流転の途上において一つの星として生まれた太陽の惑星として生まれ五十億年前に生まれたものだと いわれる。そう考えて見ると、地上に発生した生命、したがってすべて生物、そして吾々人間の体の中には曾て天に輝いていた星の物質を内蔵しているという極めてロマンチックな理論が成立するし、地球上において二十五億年以上もかかって原始地球の表面に存在した材料から生命が誕生し、さらにその生命が、遂に百万年前に人間にまで進化した

といわれるとすれば、この長い年月の所産としての脳の構造が、物質的所産としてのみの説明だけで「精神の座」が簡単に解明できるかどうかは誰しも疑問とするところであろう。さらに生物は外界の条件によつて適応しなくなったものは絶滅して新たに適応する者が現われ進化が起るのが曲げることの出来ない原則である。したがって現在の人間をめぐる環境そして、現在の方式によるエネルギー源（食物を含めて）の限界が見えていき、「種」としての人類が果して存続し得るかどうか。また現在の脳生理学が解明した「精神の座」の解明は永久的に不変であるかどうか。このような事態を迎えた現代において、単に諸行は無常であると取りすましてはいられないし、「精神の座」は脳という物質的所産であるだけに割切つてはおられないことを深く銘記すべきだと思う。したがって「精神の座」を広い領域の脳にあるとする科学も、誕生があつて老病死があり故に苦悩があり、その苦悩は欲望になり、これを超克することが仏教であるとする理論も、結局は個々の人間を超え、「種」としての人類がたくましく生きのび、限りなく創造していく願望を実現していく原理として捉えることによつて、科学も、仏教も同様な目的を持つものであり、これがまた生命を尊重し、愛惜する人間の本質と意義でなければならぬと思う。以上は限られた紙数のなかで、すべて要約した単なる「精神の座」についての一

つ、そして貧弱な視座にすぎないことを付言したい。（全仏文化専門委員長）

## 紀要を刊行

### 「生命科学と仏教」

全仏、国際仏教交流センター共催のもとに昨年八月開催したシンポジウム「生命科学と仏教」の会議記録がこのほど紀要として刊行された。

あなたも

## ボロブドール遺跡へどうぞ

### 視察団員を募集 中

全仏九月号既報のように、現在全仏ではボロブドール遺跡視察団員を募集している。

ボロブドールはインドネシア、ジャワ島にある世界最大の仏跡で、約一千年前に建設されて以来、今日では風化が激しく崩壊の危機に瀕しており、最近ユネスコが保全と修理にのり出している。

視察団は明年二月二十六日東京を発つて、ボロブドール遺跡を視察すると共にバリ島、シンガポールにもそれぞれ二、三泊して三月八日に帰国する、十泊十一泊のスケジュールとなっている。

この脚光を浴びている古代仏教徒の信仰遺産を巡拝する絶好の機会に、是非多数の方々の御参加をおすすめします。

○費用 二十八万円

紀要の内容は、江上不二夫氏（三愛化成生命科学研究所長）の「自然科学的生命観」、西義雄師（東洋大名哲教授）の「仏教の生命観」、千谷七郎氏（東京女子医大教授）の「自然哲学的生命観」意識と生命」の三つの基調講演と、出席学者二十数名によるシンポジウムから成っている。

なお、紀要ご希望の方は、全仏組織文化局まで。実費にて頒布（五百円）。

○申込締切 十二月二十日

○申込先 全仏国際局

詳細等お問合わせは全仏国際局まで、要項、申込用紙等お送りします。

### ポカーラ仏教展示会へ出展

——ネパール——

ネパール国ポカーラにおいて十一月十日から二十二日までの二週間、仏教関係展示会が開催される。この展示会の開催にあたり、外務省を通じて緊急に全仏宛に日本の仏教事情（生活、習慣、寺院風景等）を紹介する展示品の寄贈依頼があり全仏ではただちに関係各方面の協力を得てポスター、写真、書籍等の展示品を十月下旬、ネパール国へ送った。

昭和47年11月1日

# 宗教法人審議会委員任命さる

— 文化庁 —

第十一期宗教法人審議会委員は、文化庁より昭和四十七年九月十一日付をもつて左記の通り任命された。

- 瑞比古 (神社本庁事務総長)
- 白井 光男 (神社本庁事務副総長)
- 柴田 道守 (実行教管長)
- 品田 聖平 (神道大教管長)
- 山田 義道 (曹洞宗宗務総長)
- 築山 定誉 (真言宗豊山派宗務総長)

## 事務総局録事 (十月)

- 一日～三日 全仏青森大会
- 六日 インドネシア仏教会代表来局
- 七日 局内会議
- 十一日 ネパール、インド大使館等  
大会挨拶廻り
- 十八日 局内会議
- 二十三日 文化専門委員会
- 二十五日 栃木県仏総会出席 (麻布  
事務総長)
- 二十六日 機構改正案起草委員会  
局内会議
- 二十七日 組織専門委員会
- 二十九日 長野県仏大会出席 (新聞  
局長、北山主事)

- 工藤 義修 (本願寺築地別院輪番)
- 安斉 伸 (上智大学教授)
- 滝沢 清 (日本キリスト教連合会幹  
事)
- 深田 長治 (円心教教主)
- 宮本 武保 (妙智会教団理事長)
- 田中 義男 (文化財保護審議会会長)
- 久保 正幡 (東京大学名誉教授)
- 堀 一郎 (成城大学教授)

昭和四十八年版

## 仏教徒手帳

申込み受付中

全仏総務局では、来年度の仏教徒必携「全仏手帳」を左記要領にて、十一月初旬に発行することになりました。お申込みは、全仏総務局(東京都台東区西浅草一ノ五ノ五 一～一)まで。

- 体裁 縦十二・二cm×横八・二cm
- 表紙 特製合成皮革
- 内容 三帰依文、四弘誓願、宗門  
聖日、宗派・都道府県仏・  
団体役員住所録、忌日早見  
表、各県宗教法人事務主管  
部局一覽その他
- 定価 二五〇円、送料別実費

### ◆インド美術・音楽研修旅行

—アジャンタ・エローラ・サンチを含む

主催 財団法人 日印協会

期間 昭和47年12月25日～昭和48年1月7日

参加費用 297,000円

資料のご請求、お問い合わせは

千代田トラベルまで

### ◆ボロブドール遺跡視察団

—ボロブドールとバリ島を含む

主催 財団法人全日本仏教会

期間 昭和48年2月26日～3月8日

参加費用 280,000円

国際旅行業協会会員  
運輸大臣登録一般154号

株式会社 **千代田トラベル**

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)  
電話407-3612(代)・400-5100 郵便番号 107

昭和四十七年十一月一日発行

発行人 麻布照海 編集人 岩脇宏信

発行所 財団法人 全日本仏教会  
東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)